

CentreCOM® 8724SL/8748SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724SL/8748SL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.1 pI05 (2.6.1-05)

2 本バージョンで追加された機能


ソフトウェアバージョン 2.6.1 pI04 から 2.6.1 pI05 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


ネットワーク上の NTP サーバーから時刻情報を取得し、システムの時計を正確に設定できる NTP に対応しました。

2.2 Rapid STP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」

従来のスパンニングツリープロトコル (STP) よりも構成変更時の収束時間が短い Rapid STP(RSTP) (802.1w) に対応しました。デフォルトの動作モードは STANDARD モード (従来の STP) ですが、SET STP コマンドの MODE パラメーターで RAPID モード (RSTP) に切り替え可能です。また、ブリッジ関連パラメーターは SET STP コマンドで、ポート関連パラメーターは SET STP PORT コマンドで変更します。

2.3 BGP-4 (AT-FL-08)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ドメイン間経路制御プロトコル BGP-4 に対応しました。ご使用にはフィーチャーライセンス AT-FL-08 が必要です。

2.4 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

IGMP Snooping に関するパラメーターを拡張し、SET IGMPSPNOOPING ROUTERMODE コマンドを追加しました。これにより、All Group に登録するマルチキャストグループアドレスを指定できるようになりました。

2.5 ENABLE/DISABLE IGMP ALLGROUP コマンド (AT-FL-03)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP/IGMP Snooping 使用時、All Group への所属可否をポートごとに変更できるようになりました。デフォルトでは、ルーティングプロトコルパケット (RIP、OSPF など) を受信したスイッチポートは All Group 所属となり、同ポートにはすべてのマルチキャストパケットが出力されますが、この動作が望ましくない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドでポートが All Group 所属にならないよう設定を変更できます。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要になります。

3 本バージョンで仕様変更された機能


ソフトウェアバージョン 2.6.1 p104 から 2.6.1 p105 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 ファイアウォールに関する仕様変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

NAT に設定した IP アドレスへの ARP request に対して ARP reply を送出するように仕様変更しました。この仕様変更により、スタティック NAT、ダイナミック NAT を利用する場合に、マルチホーミングやプロキシ ARP、ポリシーフィルターの設定を追加する必要がなくなりました。なお、従来の設定でも問題なく動作します。

3.2 IGMP に関する仕様変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

Group Membership Interval (Timeout Interval) のデフォルト値を RFC に準拠し、260sec に変更しました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.6.1 p104 から 2.6.1 p105 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 ファンの動作が正常な場合に FAN Trap が送信されたり、エラーがログに記録されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 ログ機能において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）に 92 以上の値を指定した場合に、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 ログの出力先 "TEMPORARY" を削除後、SHOW DEBUG コマンドを実行するとシステムが正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 NTP パケットを 5～7 回送信すると、システム時刻が正しく設定されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 トランクグループのポートから、所属 VLAN を変更したポートへの通信ができないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 ループが発生した場合に、カウンターおよび FDB 機能が正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.7 SET QOS HWQUEUE コマンドの送信キュー番号に 0～3 以外の数字も入力できていましたが、これを修正しました。
- 4.8 タグなしポートに設定した受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) が 1000Kbyte 未満の場合、他のスイッチと通信できないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 ハードウェア IP フィルターにて、EPORT パラメーターを指定した場合に ACTION=DENY、SETPRIORITY、SENDMIRROR が正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 ミラーリングのソースポートとミラーポートのインスタンスが異なる場合、ソースポートと同じインスタンスに所属するポートからのパケットが送信されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.11 SET PORTAUTH PORT コマンドで PIGGYBACK パラメーターを変更するたびに SHOW SWITCH FILTER コマンドで表示されるエントリーが増加していましたが、これを修正しました。
- 4.12 ディレクティブブロードキャストパケットを受信すると、CPU の負荷率が 100% になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.13 OSPF 設定時、ECMP を構成した場合に正しく経路制御されないことがありましたが、これを修正しました。

- 4.14 OSPF において、ASBR から受信した AS 外部経路をルーティングテーブルに反映しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.15 ABR として動作している場合、システムを再起動すると、スタブエリアにデフォルトルートを再配信しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.16 本製品が送信するパケット (PING コマンドにより送信される ICMP パケットなど) に対してポリシーフィルターが機能しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.17 既に OSPF 経路が存在する場合に、その経路に対して IP ルートフィルターを設定すると正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.18 Path MTU Discovery が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.19 インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.20 IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 DHCPNAK を送出した場合に不正なログが記録されていましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン 2.6.1 p105 には、以下の制限事項があります。

5.1 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）を設定しても、指定した数値以上のメッセージが保存される場合があります。

5.2 SNMP MIB オブジェクトについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB-II の ifInErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。
- ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できません。

5.3 コンソールポートについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「非同期ポート」


電源をオンにしてから、時刻情報を設定しない状態で 24 時間経過すると、コンソールポートからのキー入力ができなくなります。電源をオンにしてから 24 時間以内に時刻情報を設定するか、キー入力ができなくなった場合には、TELNET でログインして時刻情報を設定してください。

5.4 ポートランキングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループが読み込まれる順序が変更されます。

5.5 フローコントロールについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分を「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

5.6 DISABLE SWITCH PORT コマンドについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、指定したポートが物理的にリンクダウンし、LINK/ACT (L/A) LED が消灯します (対向機器のポートもリンクダウンします)。

5.7 ポートミラーリングについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されます。このような場合は、設定を保存した後、システムを再起動してください。

5.8 ポートセキュリティについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


- ポートセキュリティがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリーも削除されます。
- ポートセキュリティがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストかマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録します。ただし、通信には影響ありません。

5.9 "PROTECTED" オプション付き VLAN について (8748SL のみ)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)


8748SL では、PROTECTED オプション付きで作成した VLAN に IP アドレスを設定した場合、SHOW SWITCH FDB コマンドを実行すると、スイッチ自身の MAC アドレスを持つスタティックエントリーが表示されますが、これは表示だけの問題で動作には影響しません。無視してください。

5.10 スパニングツリープロトコルについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「スパニングツリープロトコル」](#)

スパニングツリープロトコル有効時、フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧しなくなります。フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しないでください。

5.11 ハードウェア IP フィルターについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ハードウェア IP フィルター」](#)

- 8748SL では、ポート 25 ~ 48 とポート 49 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT、SENDEPORT アクションが機能しません。

- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。
- 本製品宛てのパケットに関して、NOMATCHACTION で設定したアクションは機能しません。本製品宛てのパケットに関しては、NOMATCHACTION を設定しないフィルターを定義してください。
- ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで IMPORT=False、または EXPORT=False を指定すると、IMPORT=True、EXPORT=True の設定で動作します。False で動作させたい場合は、IMPORT、EXPORT パラメーターを指定しないでください (デフォルトで False の設定になります)。

5.12 802.1x 認証について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1x 認証」


- Authenticator ポートの Port Status が authorised であるにもかかわらず、Supplicant が通信できなくなることがあります。このようなときは、ACTIVATE PORTAUTH PORT REAUTHENTICATE コマンドで Supplicant を再認証してください。
- システム起動直後、ケーブルを接続していない Authenticator ポートに対して SHOW PORTAUTH PORT コマンドを実行すると、Authenticator PAE Status が INITIALISE であるにもかかわらず、Port Status が authorised と表示されます。
- Windows 2000 Server (IAS) を RADIUS サーバーとして使用している場合、本製品の Supplicant ポートは認証されません。
- RESET PORTAUTH PORT MULTIMIB コマンドを使用しても未認証の supplicant 情報はリセットされません。
- Authenticator ポートから IGMP Query パケットが送信されません。その場合には、IGMP Snooping をディセーブルに設定してください。

5.13 CREATE PPP コマンドのヘルプについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」


「CREATE PPP ?」と入力した場合、使用可能なオプションパラメーターの一部のみ表示されます。

5.14 ICMP メッセージについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」](#)


ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

5.15 TRACE コマンドについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」](#)


- TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリポートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つが、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。
- SET TRACE コマンドで値を設定し、SHOW TRACE コマンドで表示すると、設定した値が正しく表示されない場合があります。

5.16 IP 統計情報の表示について

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」](#)


- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

5.17 ディレクティッドブロードキャストアドレス宛のパケットについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」](#)

- 異なるネットワークからディレクティッドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスがセットされます。
- IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティッドブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできません。

5.18 RIP について

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 \(RIP\)」](#)

- ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。
- ADD IP RIP コマンドの AUTHENTICATION パラメーターに MD5 か PASSWORD を指定した場合、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、該当インターフェースの RIP 設定が有効になりません。これを回避するには、設定ファイルを EDIT コマンドで編集してください。

たとえば、vlan10 でパスワード認証を使う場合は、次のような箇所を探します。

```
add ip rip int=vlan10 send=rip2 receive=rip2 auth=pass
set ip rip int=vlan10 pass=xxxx
```

この箇所を次のように書き換え、AUTHENTICATION パラメーターと PASSWORD パラメーターが同一行になるようにしてください。

```
add ip rip int=vlan10 send=rip2 receive=rip2 auth=pass pass=xxxx
```

5.19 OSPFについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

ADD OSPF INTERFACE コマンドで仮想リンクを設定後、設定を保存して再起動するとエラーメッセージが表示され設定が反映されません。その場合は、設定ファイルを EDIT コマンドで編集してください (EDIT コマンドで設定を行っても、SHOW CONFIG DYNAMIC の表示は設定と異なりますが問題はありません)。

たとえば、コマンドラインで

```
ADD OSPF INTERFACE=virt0 AREA=1.1.1.1 VIRTUALLINK=2.2.2.2
```

の設定を行った場合、設定を SHOW CONFIG DYNAMIC コマンドで表示すると

```
ADD OSPF INTERFACE=virt0 AREA= VIRTUALLINK=x.x.x.x
```

のようになり、設定した内容と異なっています。その場合には、設定ファイル内で以下のような箇所を探します。

```
ADD OSPF INTERFACE=virt0 AREA= VIRTUALLINK=x.x.x.x
```

この箇所を以下のように書き換えて、ファイルを保存してください。

```
ADD OSPF INTERFACE=virt0 AREA=1.1.1.1 VIRTUALLINK=2.2.2.2
```

5.20 DNS サーバーアドレスの動的取得について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されません。

5.21 DNS キャッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

5.22 ソフトウェア IP フィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」


- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

5.23 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」


マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースがナチュラルサブネットでないと（ネットマスクがクラス標準マスクでない）、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

5.24 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」


ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。

5.25 IPv6 について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- SET IPV6 ND コマンドにて MTU を変更した場合、再度デフォルトの 0 に戻すことができません。その場合には、EDIT コマンドで設定ファイルを編集し、SET IPV6 ND のコマンド行を削除してください。
- PC(Windows 2000) と本製品に Neighbour キャッシュが空の状態、PC から本製品に向けてデータ長 1453Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリポートすることがあります。本製品に対して、データ長 1453Byte 以上の IPv6 PING を実行しないでください。

5.26 IGMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」


NONQUERIER が IGMP Leave メッセージを受信すると RT(Refresh Timer) を更新します。

5.27 IGMP Snooping について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SET IGMP SNOOPING ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には ALL Group を作成します。ALL Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

5.28 MLD Snooping について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」


- IGMP Query、RIP などの IPv4 のルーターパケットを受信した際に、内部テーブルの ALL Group エントリーにその受信ポートを追加します。
- IPv6 パケットのヘッダー内の PadN と Router Alert の順序によって、パケットフォーマットを不正と判断し MLD snooping テーブルにエントリーを追加しないことがあります。

5.29 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが2 ずつカウントされます。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。
- SHOW FIREWALL POLICY でパラメーターに COUNTER を指定した場合、表示される Apprule の Number Hits が正しくカウントされません。
- ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。
- ADD FIREWALL POLICY コマンドでダイナミック ENAT の PUBLIC インターフェースに IP と LIST を指定したルールを設定した場合、エラーメッセージが表示されます。その場合は、ADD FIREWALL POLICY コマンドで MAC アドレスリストを追加し、SET FIREWALL POLICY コマンドで IP アドレスを設定してください。

5.30 VRRP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。

5.31 DHCP サーバー機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

- DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェース

の IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。

- MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。このようなときは、リースされている IP アドレスを一度解放し、再度取得させるようにしてください。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および弊社ホームページに掲載されている「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.B)」の補足事項です。

6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。


6.3 スイッチポートの統計カウンターについて（8748SLのみ）

8748SL では、ポートグループ「1～24、50」と「25～48、49」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。

6.4 1000Mbps ポートのフラッディングレートについて


リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

6.5 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループットについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

6.6 フォワーディングデータベースについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.7 ハードウェア IP フィルターについて


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、Ethertype = 0x86DD (IPv6) の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーが

マッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。

- IPX ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPX パケットに対しては、SENDMIRROR 以外のアクションが機能しません。また、SENDMIRROR アクションと EPORT パラメーターは併用できません。ルーティング対象の IPX パケットをフィルタリングするには、IPX トラフィックフィルターを使用してください。なお、ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPX パケットには、すべてのアクションが機能します（ただし、IP パケットを前提としている MOVETOSTOPRIO、SETTOS、MOVEPRIOTOTOS、SETIPDSCP アクションは使用不可）。
- フレームタイプ 802.3raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリを作成した場合、このエントリはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチします。

6.8 802.1x 認証について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1x 認証」


802.1x 認証を有効にしたポート（Authenticator、Supplicant とも）では、ポートランキング、スパンニングツリープロトコル、ダイナミックポートセキュリティを使用できません。また、Authenticator ポートをタグ付きに設定することはできません。

6.9 IP 統計情報の表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ファイアウォール（AT-FL-02）有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター（ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards）に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。

6.10 IP マルチキャストのハードウェア処理（AT-FL-03）について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「概要」

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最初に ADD IP INTERFACE コマンドを実行した VLAN の VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

6.11 DVMRP（AT-FL-03）について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に[?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLTALK, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIM6, IPSEC, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.B)」に記述があります。

COPY

DUMP

START PKT

STOP PKT

SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]

SET PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK

SHOW SWITCH MEMORY

SHOW SWITCH SWTABLE

SET SWITCH SOCK

SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHAF}]

CREATE/DESTROY IP POOL

SHOW IP POOL

ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ; INTERFACE}]

ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY

ADD/DELETE IP EGP

ENABLE/DISABLE IP EGP

SHOW IP EGP

ADD/SET IP RIP [NEXTHOP]

ADD/DELETE IP SA

SHOW IP SA

SET IP ARP [DLCI] [CIRCUIT]

SET IP RIP NEWIPADDRESS

SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW
ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT] [FRAGOVERHEAD]
[LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER] [NUMBER] [TYPE]

ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE] [MODEM]
[NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE] [TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]

SET BOOTP MAXHOPS

ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (J613-M0019-01 Rev.B)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0019-01 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ(左下)に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

